NaraKiKiManyo Project Since 2012

なら記紀・万葉

なら記紀・万葉プロジェクト

集大成

NaraKiKiManyo Project Since 2012

なら記紀・万葉

「なら記紀・万葉プロジェクト」とは

**現代と古代、古代と未来。
楽しみながら、
歴史とのつながりを
実感する取り組みです。**

『古事記』完成1300年の2012年から、

『日本書紀』完成1300年の2020年へ。

ふたつの節目となる年をつなぐ、

9年間にわたるプロジェクト。

歴史や伝承の魅力を再発見する「気づく」心、

豊かな歴史を「生かし」「味わう」心、

先人が伝えたアイデンティティーを「誇りに思う」心、

さらに次世代へとつないでいく「継承」の心。

この4つの心で、「本物の古代と出会い、

本物を楽しめる奈良」を発信してきました。

「記紀・万葉」とは

古事記・日本書紀・万葉集の基礎知識 Q&A

「なら記紀・万葉プロジェクト」では、『古事記』『日本書紀』『万葉集』に代表される歴史文化資源を「記紀・万葉」と表現しています。『古事記』『日本書紀』『万葉集』には日本の源流についてのさまざまな記述があり、それぞれに異なる視点で、古代日本のありようを伝えています。

『古事記』とは、何ですか？

『古事記』は712年に完成した、現存する日本最古の書物です。全3巻からなり、天地（あめつち）の始まりから推古（すいこ）天皇の時代までの、さまざまな物語が記されています。中には、大国主（おおくにぬし）神が傷ついたウサギを助ける『因幡（いなば）のしろうさぎ』など、昔話として語り継がれているものもたくさんあります。

書いたのは、誰ですか？

序文には、天武（てんむ）天皇の命令で舎人（とねり）の稗田阿礼（ひえだのあれ）が暗記した物語を、太安万侶（おおのやすまろ）が書物にまとめたと書かれています。天武天皇の崩御後、作業は一時中断しますが、約30年後、元明（げんめい）天皇の時代に完成しました。

何のためにつくられたのですか？

序文には、「いろいろな家に『帝記（ていき）』『本辞（ほんじ）』が伝わるが、虚偽も多い。これらは国家の根本だから、きちんと考察し、正しいものを定めて後世に伝えようと思う」という天武天皇の言葉が記されています。国内向けに、天皇家の正当性をアピールする目的があったと考えられています。

『日本書紀』は、何のためにつくられたのですか？

『日本書紀』は7世紀後半から編纂が始まったとされる、日本ではじめての公式の歴史書です。本文30巻と系図1巻（現在は亡失）からなり、出来事を年代順に記す編年体の体裁をとっています。当時は日本の国号を東アジア諸国に認めさせようとしていた時代。ほかの国々に国威を示す上でも、正史の編纂は重要な事業でした。

書いたのは、だれですか？

編纂は『古事記』同様、天武天皇の命で始まりました。『日本書紀』には序文が無く、成立の経緯はわからないことも多いのですが、当初川島（かわしま）皇子らが始め、舎人（とねり）親王らが引継ぎ、720年に完成したと考えられています。

『古事記』との違いを教えてください

『日本書紀』では神話の時代の記述は最初の2巻のみで、残る28巻は、初代神武（じんむ）天皇から第41代持統（じとう）天皇までの、さまざまな事績の記述です。第33代推古天皇までを記す『古事記』と重複はしますが、内容には違いも多く、一例として、有名なヤマトタケルと父・景行（けいこう）天皇の関係についての記述が大きく異なる点などが挙げられます。

『万葉集』とは何ですか？

『万葉集』は奈良時代の貴族・大伴家持（おおとものやかもち）が編纂に関わったとされる、日本に現存する最古の歌集です。全部で20巻あり、掲載される歌の総数は、約4,500首に上ります。天皇や貴族だけでなく、兵士や農民まで、身分を問わずいろいろな人が詠んだ歌が収められています。

古文が苦手でも楽しめますか？

『万葉集』の魅力に触れるには、古文の知識よりも、歌が詠まれた背景を知ることが大切です。例えば、「東（ひむがし）の 野に炎（かぎろひ）の 立つ見えて かへり見すれば 月傾（かたぶ）きぬ（巻一・四八）」。柿本人麻呂が軽（かる）皇子（後の文武（もんむ）天皇）と阿騎野（現宇陀市大宇陀）に狩りに来た時に詠んだとされる歌で、軽皇子を昇る朝日になぞらえてたたえつつ、沈む月に、亡き草壁（くさかべ）皇子を懐かしんでいると考えられています。

『万葉集』の魅力に触れられる場所を教えてください

奈良県を舞台に詠まれたとされる万葉歌は、約900首。万葉歌碑も県内各所にありますから、まずはお近くの万葉歌の舞台を探してみるのが良いかもしれません。また、明日香村にある奈良県立万葉文化館をはじめ、『万葉集』を紹介する文化施設などをめぐるのもおすすめです。

なら記紀・万葉プロジェクト

これまでの歩み

2012年から9年にわたる本プロジェクトでは、
さまざまなイベント・行事等を通して、奈良県内外のみなさまに、
奈良県の歴史・文化の魅力を発信してきました。
その試みは、まだまだこれからも続きます。

古事記出版大賞・古代歴史文化賞

2012～2013年度は「古事記出版大賞」の表彰式・記念シンポジウムを開催し、「古事記」に関する優れた出版物を表彰しました。2014年度からは「古代歴史文化賞」記念シンポジウムを開催し、古代史にゆかりの深い、島根、奈良、三重、和歌山、宮崎の5県が共同で、古代歴史文化の魅力を広く発信しています。

〈古事記出版大賞受賞作品〉
2012年度「古事記（別冊太陽 日本のこころ196）」　平凡社／2012年
2013年度「地図と写真から見える！古事記・日本書紀」　西東社／2011年／山本 明

〈第7回までの古代歴史文化賞大賞受賞作品〉
第1回　『古代国家はいつ成立したか』　岩波書店／2011年／都出 比呂志
第2回　『飛鳥の木簡－古代史の新たな解明－』　中央公論新社／2012年／市 大樹
第3回　『アイヌ学入門』　講談社／2015年／瀬川 拓郎
第4回　『国際交易の古代列島』　KADOKAWA／2016年／田中 史生
第5回　『タネをまく縄文人　最新科学が覆す農耕の起源』　吉川弘文館／2016年／小畑弘己
第6回　『儀式でうたうやまと歌』　塙書房／2017年／大桶　隆
第7回　『「古今和歌集」の創造力』　NHK出版／2018年／鈴木 宏子

712年　『古事記』完成

720年　『日本書紀』完成

2007年

2012年　『古事記』完成1300年

- 記紀・万葉リレートーク（2012年～2013年）
- 「古事記出版大賞」表彰式・記念シンポジウム（2012年～2013年）
- 記紀・万葉ウォーク（2012年～2016年）
- 古事記完成1300年記念シンポジウム
- 全国高校生歴史フォーラム（2013年までは奈良大学の主催、2014年からは奈良県と奈良大学の共催）

なら記紀・万葉 名所図会 ― 古事記編 ―　発刊

なら記紀・万葉 名所図会 ― 古事記こども編 ―　発刊

2013年

- 古事記を語る講演会（2013年～2014年）
- 古事記のまつり（2013年～2018年）

なら記紀・万葉 名所図会 ― 古事記・旅編 ―　発刊

2014年

- 大古事記展
- 首都圏記紀シンポジウム
- 「古代歴史文化賞」記念シンポジウム（2014年～）

なら記紀・万葉 名所図会 ― 古事記神様・人物入門編 ―　発刊

2015年

- 全国観光ボランティアガイド奈良記紀サミット
- 日本書紀を語る講演会（2015年～2017年）
- 日本書紀こども塾（2015年～）

なら記紀・万葉 名所図会 ― 図解で楽しい大古事記展編 ―　発刊

2016年

- なら記紀・万葉 ヤマトナデシコ塾
- 聖徳太子シンポジウム（2016年～）

なら記紀・万葉 名所図会 ― 日本書紀ことはじめ編 ―　発刊

2017年

- 古代にまつわる講演会
- 記紀を語る講演会（2017年～2019年）

なら記紀・万葉 名所図会 ― 日本書紀・歴史体感編 ―　発刊

2018年

なら記紀・万葉 名所図会 ― 日本書紀・旅編 ―　発刊

2019年

2020年　『日本書紀』完成、藤原不比等没後1300年

- 日本書紀完成・藤原不比等没後1300年記念イヤーオープニングイベント
- 特別展 出雲と大和
- なら記紀・万葉集大成連続講演会
- 「なら記紀・万葉プロジェクト」2020集大成シンポルイベント
- 「日本書紀完成・藤原不比等没後1300年記念」イベント

2021年

2014年　大古事記展

奈良県立美術館で、「古事記」の魅力を伝える展覧会を開催しました。展示品は古社に伝わる宝物から気鋭の現代アーティストの新作まで多岐にわたり、10万人以上の来館者がありました。

2015年　全国観光ボランティアガイド奈良記紀サミット

全国の観光ボランティアガイドが奈良に集まり、記紀・万葉や地元の伝承、歴史などをテーマにした地域紹介、地域間交流の可能性について、話し合いました。

2020年　「なら記紀・万葉プロジェクト」集大成となるイベントを開催

「なら記紀・万葉プロジェクト」の集大成となる2020年は、
シンボルイベントである「ならの次代へ」を始め、
さまざまな記念事業を開催しました。
また、この年は古代の政治家・藤原不比等没後1300年にもあたり、
奈良時代を考える連続講演会、トーク&コンサート、
記念シンポジウムなども行いました。

2012年　古事記完成1300年記念シンポジウム

『古事記』完成1300年である2012年は1月に東京でシンポジウム「日本の原風景に出会う古事記の世界」、また9月には、橿原文化会館でシンポジウム「古事記からの伝言。～はじまりの地・奈良・あらたな始まり～」を開催しました。

2013年～　古事記のまつり

『古事記』に親しみ、その魅力を体感する「古事記のまつり」を、2013～2018年に計6回開催しました。「古事記朗読大会」「こども古事記かるた大会」などを行い、老若男女問わず、たくさんの方にお越しいただきました。

2014年　首都圏記紀シンポジウム

2014年、東京都千代田区の日本教育会館一ツ橋ホールで、首都圏記紀シンポジウム「古代・現代・未来と記紀」を開催しました。3部構成で、最後には「古事記出版大賞」の発表、表彰式も行いました。

2015年～　日本書紀 こども塾

「古事記かるた大会」や「日本書紀すごろく大会」などを通して、子ども達に楽しみながら、記紀に親しんでもらうイベントです。2015年から、県内各地で開催しています。

2016年　なら記紀・万葉 ヤマトナデシコ塾

東京南青山の銕仙会（てっせんかい）能楽堂で、古代衣装着用体験のワークショップを行いました。華やかな雰囲気の中、マンガ家の里中満智子さんによる「古代日本女性の実力」の講演なども盛況でした。

講演会の開催は数えきれないほど！

2017～2019年に行った「古代にまつわる講演会・記紀を語る講演会」、2015～2017年の「日本書紀を語る講演会」、2013～2014年の「古事記を語る講演会」、2012～2013年の「記紀・万葉リレートーク」など、期間中開催した講演会は数えきれないほど。たくさんの講師の方に、「記紀・万葉」の魅力を語っていただきました。

2020年　特別展 出雲と大和

島根県と奈良県が共同し、東京国立博物館において古代日本の成立やその特質に迫る展覧会を開催しました。古社に伝わる神宝から出土品、仏像まで、日本の始まりを感じさせる文化財が一堂に会しました。

WEBサイトにも「記紀・万葉」がいっぱい！

奈良県歴史文化資源データベース いかす・なら

詳しくはこちら

奈良県の歴史文化資源の活用を目的としたデータベースです。データベースの他にも、奈良県の歴史と日本史・世界史の対比年表、県内に伝わる妖怪伝説など、いろいろな切り口で、奈良県を紹介しています。

各界の識者が語る「わたしの記紀・万葉」

詳しくはこちら

マンガ家から大学教授、芸術家、さらには県内自治体の市長まで、20名を超える有識者のみなさまに、「記紀・万葉」について語っていただきました。それぞれの思い出の地なども語られていて、読み応えのあるサイトです。

記紀・万葉でたどる奈良

詳しくはこちら

「記紀・万葉」に特化したウォーキングルートを中心に記紀・万葉の魅力を紹介しています。歩く前に知っておきたい「記紀・万葉の基礎知識」も充実しています。

奈良の歴史と魅力を発信するDVDの貸し出し

詳しくはこちら

「天武天皇と持統天皇 ～国の礎を築いた二人の想い～」など、歴史上の人物を通して奈良をより深く知ってもらえる、DVDの貸出を行っています。

ドラマ日本書紀

詳しくはこちら

『日本書紀』の内容を、「暦のはじまり」「時計のはじまり」などのエピソード別に、イラストと文章で紹介。「壬申の乱」は全5話で紹介しており、読み応えがあります。

ギュギュッと！ 日本書紀

詳しくはこちら

『日本書紀』に記された、神々の時代から日本国の形が出来上がるまでの雄大な物語を、20枚のイラストに「ギュギュッと！」まとめました。

古事記ゆかり地マップ

詳しくはこちら

日本各地に残る『古事記』ゆかりの地を、地図を使って紹介しています。『古事記』のエピソードを、登場する神様、人物別にまとめた「古事記10のエピソード」もおすすめです。

なら記紀・万葉 オンライン講演会

詳しくはこちら

本プロジェクトの集大成として2020年に開催した連続講演会。第3弾はオンライン開催で、好評配信中です。今後も様々な講演会等を順次オンラインにて公開予定です。

古事記から生まれたストーリー

詳しくはこちら

「三輪」の地名の由来となった大物主大神と活玉依毘売（いくたまよりびめ）の恋物語など、『古事記』の内容を15のエピソードに分け、イラストを交えて紹介しています。

今後の取り組み

聖徳太子没後1400年
2021-2022
本物の古代と出会い、本物を楽しめる奈良
なら記紀・万葉プロジェクト

2021年は「聖徳太子没後1400年」の年 今年も歴史を学ぶイベントが盛りだくさん

推古天皇の摂政として活躍した聖徳太子。『日本書紀』は太子が亡くなった年を、推古天皇29年(621)と記しています(『上宮聖徳法王帝説』等では推古天皇30年(622))。政治、外交、文化など、あらゆる分野で大きな功績を残した太子。没後1400年となる2021年は、太子の生きた時代を考える、多彩な講座やイベントを開催します。
2016年に設立された「聖徳太子プロジェクト推進協議会」は、県及び県内外の聖徳太子とゆかりの深い市町村で構成され、聖徳太子関連の歴史文化資源の活用につながる取り組みを推進しています。

聖徳太子プロジェクトとは　聖徳太子の偉業をさまざまな角度から紐解き、みなさまに伝えるプロジェクト。県内外の太子ゆかり地を訪ね、奈良県と太子ゆかりの地域の魅力をPRします。

右記QRコードを読み込むだけで簡単アクセス！　聖徳太子プロジェクト　検索　> いかす・なら > 活かす > 聖徳太子プロジェクト

「なら記紀・万葉プロジェクト」はこれからも続きます

『古事記』完成1300年となる2012年から、『日本書紀』完成1300年の2020年まで、9年にわたり展開してきた「なら記紀・万葉プロジェクト」。これからも歴史の節目となる年は、2021年の「聖徳太子没後1400年」、2022年の「壬申の乱1350年」と続きます。「なら記紀・万葉プロジェクト」では、「本物の古代と出会い、本物を楽しめる奈良」の実現のため、これからも『古事記』『日本書紀』『万葉集』をはじめとする歴史文化資源を活用し、県内外のみなさまに歴史を追体験していただける取り組みを進めてまいります。

ホームページ
http://www3.pref.nara.jp/miryoku/narakikimanyo/

なら記紀・万葉　検索

企画・編集・発行／奈良県　〒630-8501 奈良県奈良市登大路町30　発行日／令和3年1月23日
©Nara Prefecture All Rights Reserved.　各ページの記載記事、写真等の無断転載を禁じます。